



天 體 望 遠 鏡 型 録

7.5 糎 反 射 望 遠 鏡 經 緯 台



7.5 糎 反 射 經 緯 台

口 徑 7.5 糎 (3吋)
 焦 点 距 離 800 糎 又 ハ 700 糎
 接 眼 鏡 (ミツテンズエー式) 1 個
 倍 率 32× 45× 64× 90×
 (上記の内希望のもの1個)
 フアインダー
 サングラス 1 個
 架 台 三 脚

定 價 円

荷作送料 円

本 機 で の 観 測 (二重星の分離限度1.5秒 見得る最微星11.5等)

太 陽 黒点の構造明瞭、黒点の微細構造
 月 山脈、火口の詳細、
 水 星 三日月状が認められる
 金 星 三日月状が明瞭
 火 星 極冠及模様存在
 木 星 縞及四大衛星、衛星の投ずる影
 土 星 輪、輪明瞭
 天 王 星 恒星との區別
 海 王 星 恒星との區別

變 光 星 光度の對照となるものが多い
 星 團、星 雲 簡易星圖に現はれているものは見える
 本機は簡易、廉價、普及を目的として製作されたものである。望遠鏡の生命たる光學鏡面はフーコーテストのパスした優秀品のみ使用されてあるから能率は優秀である、微動裝置の省界は、此の口徑程度のもは外國製にもその例が多いので決して不自由なものでない入念工作によるためスムーズな可動部で星の迹跡が出来るのである。

西 村 製 作 所

京都市左京區吉田二本松町二六 電話吉田①570番 振替京都3374番



天體望遠鏡型録

10 糎 反射望遠鏡 經緯台



10 糎 反射經緯台

口径 10 糎 (4吋)
 焦点距離 106 糎
 接眼鏡 (ミツテンズエー式) 3 個
 倍率 40× 57× 80× 110× 165×
 (上記の内希望のもの3個)
 ファインダー 25 糎 4 倍
 サングラス 1 個
 架台各部微動装置完備

| 定價 | 圓 |
|---------------|---|
| 荷造送料 | 四 |
| 太陽投影板 (10 糎像) | |
| 定價 | 四 |

本機での観測 (二重星の分離限度1.1秒 見得る最微星12.2等)

太陽 黒点の構造、黒点微細構造、投影法により黒点経緯度の記録
月 山脈詳細、噴火口微細構造
水星 三日月状が認められる
金星 三日月状極めて明瞭
火星 極冠及模様が存在
木星 縞及四大衛星、縞の構造、衛星の投げる影、衛星の圓盤像
土星 輪、輪明瞭、カシ=溝及衛星四個
天王星 恒星との區別容易

海王星 恒星との區別
變光星 観測對照が甚だ多い
星團、星雲 多數見える
 本機は優秀なる光學鏡面と完全理想の機体とに依り、最も確實、安樂に天體観測が出来るものである。光學部には修整装置があり、架台は英國型にて改良された水平微動装置と高度微動桿により星像をスムーズに追跡することが出来る。木製三脚は分解組立型なるも充分強固に製作されてある。

西村製作所

京都市左京區吉田二本松町二六 電話吉田①1570番 振替京都8374番



天體望遠鏡型録

15 糎 反射望遠鏡 經緯台



15 糎 反射經緯台

口径 15 糎 (6吋)
 焦点距離 120 糎
 接眼鏡 (ミツテンズエー式) 3 個
 倍率 48× 65× 95× 130× 200×
 (上記の内希望のもの3個)
 ファインダー 30 糎 5 倍
 サングラス 1 個
 架台各部微動装置完備

| 定價 | 圓 |
|--------------------|---|
| 荷造送料 | 四 |
| 太陽投影板 (10 糎~15 糎像) | |
| 定價 | 四 |

本機での観測 (二重星の分離限度0.8秒 見得る最微星13.2等)

太陽 黒点の構造明瞭、黒点群の微細、米粒組織極めて明白、投影法による黒点の経緯度記録
月 最も美しい天體で、山脈、噴火口の詳細観測に適當
水星 三日月状が認められる
金星 三日月状が良くわかるし、模様が見えることがある
火星 接近時には細部の模様が見えるから、火星スケッチの研究に入ることが出来る
木星 縞及四大衛星、衛星の圓盤像、木星の自轉、衛星の投げる影、縞の微細構造

土星 輪明瞭、カシ=溝明白、衛星四個見ゆ
天王星 圓盤像明瞭
海王星 恒星との區別明白
變光星 微光の観測對照が多く有る
星團、星雲 集光力があるから多數見える
天体寫真 太陽及月面引伸カメラ使用5糎~7糎像が撮影出来る
 本機は最も普及された口径であり従つて研究改良が充分ほどこされた能率高性能の機種である、アマチュア観測家は勿論専門家できへ本機を推薦される所である近時は學校教材として購入される所が多くなつた。

西村製作所

京都市左京區吉田二本松町二六 電話吉田①1570番 振替京都8374番



天 體 望 遠 鏡 型 錄

12.5 糎 15 糎 反 射 望 遠 鏡 赤 道 儀



12.5 糎 反 射 赤 道 儀 (移 動 型)

本圖の如き赤道儀を移動型赤道儀と言ふ。使用に際して室内より觀測廣場に携行移動するからである。それゆえみだりに過重をさげ、台は木製三脚としてある。これは、格納庫又は觀測室の設備を全く無用とする費用軽減の主旨によるものである。(過重な移動型赤道儀は台部に移動車を取付けるのである)觀測場所に置いたならば、先づ極軸で、北極星を狙つて、定置する。この程度にても充分赤道儀の目的に副ふものであつて、手動微動ながら、短時間の星の寫眞の撮影も出来る可能性があるから、アマチュア觀測家の希望も多い。なほ又、赤道儀の構造のみにても、天球や星の運行を説明をする雲間での學校教材となり得るものである。

口徑 12.5 糎 反 射 赤 道 儀
定 價 170,000 圓
口徑 15 糎 反 射 赤 道 儀
定 價 80,000 圓



15 糎 反 射 赤 道 儀 (据 付 型)

赤道儀を正確に据付るためには本圖の如く、ビラー(鐵柱台)を必要とするもので、ビラーは望遠鏡の主基であり頑丈に作られ、そして修整装置が無ければならぬ。移動型では度盛環の使用は信賴出来ないが、据付赤道儀は度盛環の使用出来るために非常に便宜となるし、視野内の位置角も確實を帶び、種々の測定技術の應用が出来る様になる。手動式と自動式の二種を製作し、自動式はフォノモーターを原動力としており、廉價である。熱心なアマチュア觀測家にも學校天文台としても有力な望遠鏡である。

口徑 12.5 糎 反 射 赤 道 儀
定 價 75,000 圓
口徑 15 糎 反 射 赤 道 儀
定 價 96,000 圓
自 備 裝 置 付 (赤 經 部 分 微 動 付)
定 價 更 加 25,000 圓 増



天 體 望 遠 鏡 型 録

20 糎 反 射 望 遠 鏡 赤 道 儀

納品先

北海道學堂大學函館分校
九大農學部氣象學教室
大阪府櫻塚高等学校

(寫眞は)
徳島市立徳島天文台



赤 道 儀

20 糎 反 射 赤 道 儀

| | |
|--------------|------------------------------------|
| 口 徑 | 20 糎 (8吋) |
| 焦 点 距 離 | 160 糎 |
| 接 眼 鏡 | 7 個 |
| 倍 率 | 40× 65× 90× 130× 180× 265× 400× |
| フアイング | 40 糎 5 倍 |
| サンダイアゴナルプリズム | 1 個 |
| サングラス | 1 個 |
| 手動式 定 價 | 圓 |
| 自働装置付定價 | 圓 |

荷作送料 圓

御希望に依り下記のもの添加す

| | | |
|----------------|--------------|-----------|
| 口 徑 | 7.5 糎 | 屈 折 望 遠 鏡 |
| 焦 点 距 離 | 100 糎 | |
| 倍 率 | 40× 80× 120× | |
| 自働装置付 屈折鏡附屬 | 定 價 | 圓 |

星の日周運行を追跡するために便利なのは、何人と言つても赤道儀の装置である。その構造は複雑ではあるが、目的の星が望遠鏡の視野に入れば、後は赤経運動のみにて足り、観測者の繁雑を省き、観測に有効な特長を發揮する。自働装置は、星の運行と望遠鏡の運動と歩調が合せてあり、常に星像の静止を得る、精密な装置で必要なものである。観測には、経緯台の性能全部を行ひ得るものであり、正確な観測を多人數に供覽する場合にも、天体寫眞撮影として、月、太陽、遊星、星野寫眞、分光寫眞等甚だ應用範圍に廣いものである。本機の設置には、格納庫、観測室等が必要であつて、コンクリート基礎上に取付けるものである。架台には方向、高度の修正装置を具備し、正確な据付けを要求する。自働装置は重錘式であるから廻轉の斑は無いし、重錘巻上中にも停止しないものである。赤経運動は、自働装置の他に手動微動を具へ、コード操作に依る無限微動である。赤緯微動は部分微動装置である。赤経、赤緯の度盛環の備へあり、搜索に便利である。クランプは充分使用しやすき個所に留意してある。鏡筒は赤緯軸上にあり、鏡筒全体の廻轉装置の構造ゆゑ、光軸の狂ひの懸念は無い。釣合重錘は赤緯軸上のネジ棒に有り、可變は自在である。近時、市設天文台として都人士の教養に、教室に於ける學生の研究装置として本機の使用が益々増加の需要に應じつつある。

西 村 製 作 所

京都市左京區吉田二本松町二六 電話吉田①570番 振替京都8374番